



北海道バスケットボール協会
指導者育成専門委員会
2013/12/02(月)

タクティクス (HBA指導者育成専門委員会ブログ)

NO. 134

「第44回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会北海道予選会」

北海道バスケットボール協会強化委員
指導者育成委員会 永野 博子

札幌山の手高校学校 24 連覇達成！！

(女子の部)

今大会は、ハッカで有名な北見市を中心に6会場で幕を開けた。各支部の激戦を勝ち抜いてきた26チームの試合が展開され3年生にとっては最後の大会でもあり今年を締めくくる意味のある大会でもあった。

特に、印象として残るのは3年生が中心となって戦ってきたチームが最後の底力を発揮し勝ち上がってきており、メンタル面が左右するスポーツだなと改めて思い知らされたゲームが多かった。

シード別に印象に残るゲームを紹介したいと思います。

山の手のブロックには、シード権を落としたノーシードの東商が(インターハイ2位)入り、山の手難なくベスト4に進出。創成のブロックは旭川北を一蹴した創成が進出し、海星のブロックは北星と3Pまで同点の接戦の末4Pで突き放しベスト4へ、旭川藤のブロックには、ノーシードの帯南商が旭川藤を一蹴しベスト4へ、旭川藤は初戦で姿を消す結果となった。

準決勝の山の手 VS 帯南商は、1Pは帯南商のペースで、2Pは山の手ペースで、3Pは南商#4、#5の果敢なプレーで一步も譲らず同点とし、4Pは山の手#12の3点シュート#6、#7のコンビプレーで、南商は#4の個人技で応戦し、一進一退の手に汗握るゲームで山の手辛くも逃げ切った。

今大会、全て100点ゲームを展開してきた山の手をここまで苦しめ久しぶりに、面白いゲームを見ることができた。

一方の海星 VS 創成は、ともに3年生を中心としたメンバーで臨み、前半はお互い譲らず35-36で終わる。3P海星はゾーンプレスを仕掛けるも創成10点リードで最終ピリオドに入る。4Pは創成の#6のドライブ、ミドルが大事なところで決まり、決勝戦へ駒を進める。

決勝は、3年連続のカード、伝統のある山の手に創成が挑むゲームとなり、1Pはプ

レッシュャーディフェンスと高さを生かしたプレーで 27-10、山の手楽勝かと思われたが、2P、3P は両者互角の戦いが続き、4P は一進一退のゲームで前日の帯南戦と同様息のつまる白熱した展開であった。辛くも 1 点差で山の手に軍配が上がったが、今大会は前述したように、3 年生中心のチームが最後の最後まで意地を見せてくれた素晴らしい大会であったと思う。

特に、帯南商、創成は、インターハイの屈辱をこの大会で遺憾なく晴らしてくれたように思う。

高校生のゲームは大会毎に選手は成長していくし、各チームの指導者はそのところを見据え、各々のチームで選手をしっかりと育ててほしいと願っている。ただ私もかつて高校生を指導していて苦慮したことは、特に女子の場合、技術面よりも精神面が大きく関わってくることの難しさを経験しており、指導者のご苦勞に感服している一人です。2 月の新人戦まで、新チーム作りにも期待しております。

< ベスト 5 >

- | | | | |
|----|-------|-------|-----|
| 1. | 齋藤麻未 | (山の手) | 2 年 |
| 2. | 久保田希 | (創成) | 3 年 |
| 3. | 佐藤奈奈美 | (山の手) | 2 年 |
| 4. | 多田美紗希 | (帯南商) | 3 年 |
| 5. | 樋口沙耶 | (海星) | 3 年 |

受賞者の皆さんおめでとう！！

最後に、北見地区バスケットボール協会、市内の各高校のバスケットボール部員のご協力により無事終了しました。有り難うございました。